

週刊
1973年創刊

阿ることなく・恐れることなく 愛媛経済レポート

2020年(令和2年)10月26日号 第2224号

愛媛の経済サイト



愛媛新聞社
×
EKK 愛媛経済レポート

いよくぼのファーム

中予初「野菜畑で太陽光発電」

＝小規模農家の所得向上の成功モデルを目指す＝



災害時には非常電源としても活用する。行政の支援が得られれば、地域住民が共同で

同社はハウレンソウやブロッコリー、小松菜、白菜などの野菜や米を生産し、松山市内の産直市で販売する。自社農園で直売も行う。今年2月に法人化した。

同社の農園は里山の傾斜地にあり、農地の拡張による生産性向上は難しいことから、営農型太陽光発電に着目。設備投資額と予想される農業収入・売電収入をもとに長期的な収支計画を策定し、金融機関の協力を取り付けた。

ノウハウの提供も

1125平方メートルの農地に支柱を立て、約3メートルの高さに太陽光発電パネルを設置した。パネルの総面積は約500平方メートルで容量は61・7kW。年間約7万3000kWhの発電量を見込む。固定価格買取制度を活用し、全て売電する予定。

同社は「農林水産省にも問い合わせたが、野菜を栽培するソーラーシェアリングは意外と少ない。当社が成功事例となり、小規模農家の所得向上に貢献したい」とし、将来的には資金計画や申請手続き、栽培技術などのコンサルティング事業も視野に入れる。

同いよくぼのファーム(松山市窪野町、篠原英行代表)は、自社農園で営農型太陽光発電事業を開始した。ハウレンソウやブロッコリーなどを栽培する農地に太陽光発電パネルを設置し、年間約7万kWhの電力を売電する。野菜を栽培しながら太陽光発電を行うのは中予初という。小規模農家の所得向上の事業モデルとして普及させたい考え。